



事業計画における基礎資料作成に活用した事例を紹介します。

(1/2)

今回紹介する団体：水土里ネットひろしま

取組概要

内容：農地の現状や地元要望などの調査結果を水土里情報利活用促進事業で整備した農地筆図などへ取り込み、その結果を容易に図示できるようにした。農地利用計画および土地改良施設整備計画策定を行ううえで基礎資料作成の効率化を図った。

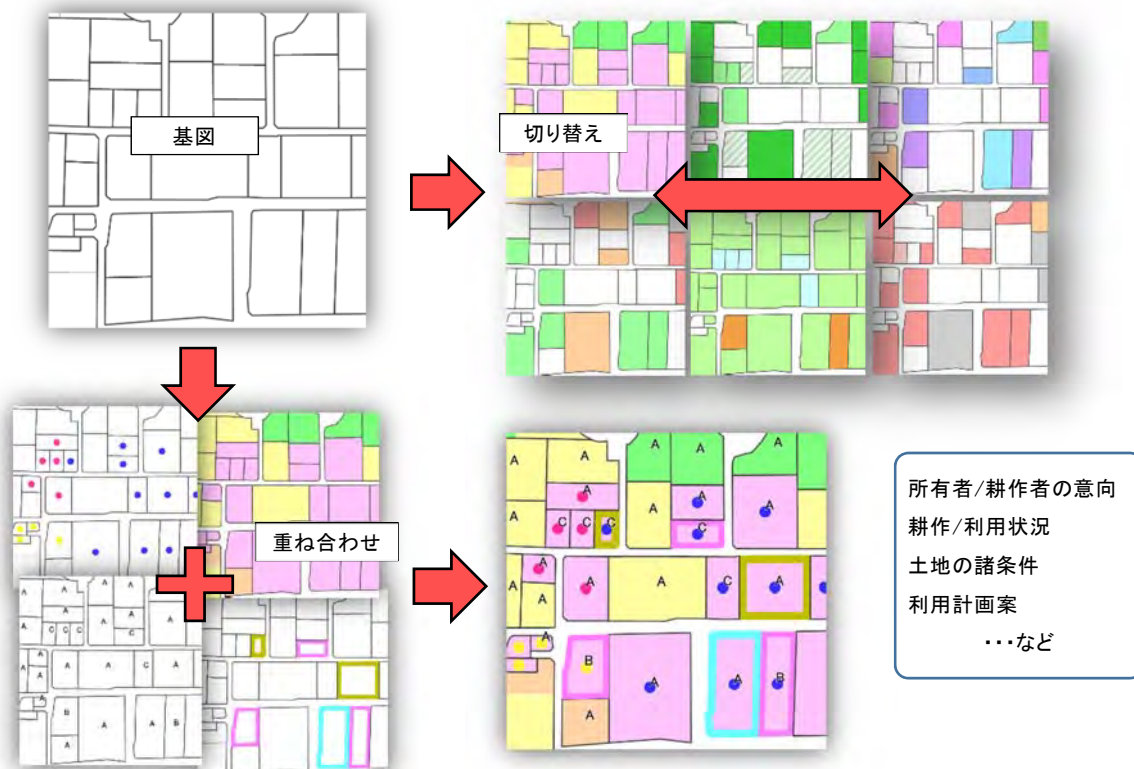
経緯：① 地域の一体的な事業計画を検討するにあたり、まず農地の現状や地元要望の詳細をアンケートや現地調査等により把握・整理する必要がある。

② これまでは、調査結果を紙媒体へ手書きで反映させていた。しかし、計画を進めるうえで再々聞き取りや現地調査を行うこともあるため、最終的には作業用のものも含めると、延べ数十枚もの図面を手書きで作成するケースもあり、計画全体の進捗にも影響することから、改善が望まれていた。

③ アンケートや現地調査の結果、既存の参考資料などを水土里情報システムへ取り込み、簡単に地図上で調査結果等を確認できるようにした(色分けなどの表示)。



期待される効果



- 画面上で各種情報の切り替えや重ね合わせが容易に短時間で可能。
- 視覚的でわかりやすい資料を迅速に地元や関係機関へ提供することが可能となり、その後の対話がスムーズに進められる。
- 基礎的な「資料作成」の負担を軽減することで、より良い計画のための「分析」や「集約」に力を入れていくことが可能となる。

今後の活用予定

計画初期の基礎資料としてだけでなく、それ以降の段階でも検討資料として活用できるよう、各過程での調査や検討の履歴なども合わせて記録できるように改良していく。

GISシステムのバージョン情報

水土里 Maps ver7.1

■ お問い合わせ先

広島県土地改良事業団体連合会 技術支援課(新谷) 082-502-7475

農林水産省農村振興局整備部設計課計画調整室(細川、久貝) 03-6744-2201(直通)